

重要文化的景観 —重要な構成要素の紹介 2—

ウカエロシキ（二風谷区域：アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観）

沙流川流域には人文神オキクルミにまつわる伝承地が数多く所在します。その中にウカエロシキという親子グマ 3 頭の形をした岩があります。二風谷ダム管理所から見て、にぶたに湖対岸に見ることができます。オキクルミに追われた親子 3 頭連れのクマが、逃げてどうしても獲られることを拒み続けたので、腹をたてたオキクルミにより岩にされてしまった、という地域住民によるウパシクマ（言い伝え）が残されている場所です。

3 頭のクマは、一番上が 2 オグマで、次が当才（生まれた年）、一番下のが母親グマであるとされています。自然の造形を動物に見立て、沙流川流域のオキクルミ伝承として語り継いできた大事な場所ですが、2018（平成 30）年 9 月 6 日の北海道胆振東部地震により母親グマの頭部にあたる部分が崩落してしまいました。頭部分だけでも何トンもあるような巨大な岩塊であり、現存部分も激しい振動による劣化が推定されることから、復元は難しい状態にあります。

地震のあった 9 月は広葉樹が生い茂る時期だったため、崩落の様子をしっかりと把握できない状況でした。そのため、冬の間に関地を再確認したところ、親グマの頭が欠けているものの、山を登る 3 頭の親子グマの様子をしっかりと確認することができました。

自然の造形は常に形を変え続けています。そうした中、いま私たちにできることは、受け継がれてきた地域住民の想いとウパシクマの文化的価値、様々なカムイに対する信仰・世界観をしっかりと継承し、大地震の記憶を語り継いでいくことだと思います。2018（平成 30）年 9 月の震災と 3 頭の親子グマの岩は、そのことを改めて私たちに教えてくれました。（長田佳宏）



にぶたに湖右岸（二風谷ダム堤体横）に所在するアイヌ伝承地「ウカエロシキ（通称クマの姿岩）」（2019年3月5日撮影）